

🏰 ～ 1 9 6 2 ～ 🏰

ブリッジ・オブ・スパイ

BRIDGE OF SPIES

映画で考える 「対話と交渉で争いを止める」

対象：中学生以上

名前

年 組

1 武器ではなく、言葉で止める

戦争を始めるのは簡単でも、止めるのはとても難しいことです。この映画の主人公は、兵士でもスパイでもなく、**言葉と交渉で国どうしの対立に挑んだ一人の弁護士**です。

 「敵」とも、話し合える。

🔑 冷戦ってなに？

第二次世界大戦のあと、アメリカとソ連は、直接大きな戦争はしないまま、にらみ合いを続けました。これを冷戦と呼びます。スパイが活動し、ドイツのベルリンには東西を分ける壁が築されました。

※実話をもとにしていますが、一部に脚色があります。

2 交渉の4つのコツ

■ ① 相手を人として見る

「敵」ではなく、事情をかかえた一人の人間として向き合う。

■ ② 目標をはっきりさせる

何を必ず守り、何なら譲れるのかを決めておく。

■ ③ 相手の「得」も考える

お互いに受け入れられる形を探す。

■ ④ 簡単にあきらめない

行きづまっても、粘り強く話し続ける。

3 映画『ブリッジ・オブ・スパイ』とは

あらすじ

弁護士ジェームズ・ドノヴァンは、ソ連のスパイ・アベルの弁護を頼まれます。世間から責められながらも「どんな人にも公正な裁判を受ける権利がある」と全力で弁護しました。数年後、ソ連に捕らえられたアメリカ人パイロットとの交換交渉のため、ドノヴァンは壁が築かれたばかりの東ベルリンへ向かいます。

1962年・グリーニッケ橋

ベルリンのグリーニッケ橋で、アベルとパイロットのパワーズの交換が実際に行われました。この橋は「スパイ橋」とも呼ばれました。

見るときの心がまえ

ドノヴァンがどんな言葉で、どうやって相手を動かしたかに注目しながら見ましょう。

4 話し合いで止めるワーク

 映画を観て（またはあらすじから）、考えて書こう

① ドノヴァンが「敵」のスパイを全力で弁護したのは、なぜだと思う？

② ドノヴァンの交渉で、うまいと思ったところは？

③ 「敵だから何をしてもいい」と考えると、どんな問題が起きる？

④ 身近なもめごとで、交渉の4つのコツを使うとしたら？

5 ふりかえり

争いを止めるには、_____という方法もあると分かりました。これから、意見がぶつかったときは、_____を心がけたいです。

 『『敵』とも、話し合える。』

先生・保護者へ：『ブリッジ・オブ・スパイ』は日本で映倫Gです。激しい暴力描写は少なく、ベルリンの壁を越えようとした人が撃たれる場面などがあります。本資料は中学生以上を想定しています。冷戦の構図を事前に簡単に補ってください。実話をもとにしていますが、一部に脚色があります。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。